

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 第3次産業活動指数(2007年7月)

発表日2007年9月18日(火)

～天候不順によって一時的に下振れ～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 中本 泰輔
TEL : 03-5221-4549

(単位:%)

		第3次産業活動指数		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
06	1-3月	0.2	2.1	▲1.0	▲1.0	0.7	0.3	▲0.3	▲0.6	0.9	0.7	0.7
	4-6月	0.6	2.7	▲0.5	2.0	0.3	1.0	▲1.1	0.5	0.6	▲0.5	0.8
	7-9月	▲0.4	1.5	0.2	▲1.9	0.5	▲0.6	▲2.0	0.5	0.6	0.5	0.5
	10-12月	0.9	1.6	2.3	3.1	0.1	1.1	0.4	0.0	▲0.3	1.0	▲0.1
07	1-3月	0.2	1.2	▲0.9	▲1.9	▲0.2	0.2	1.9	0.1	2.2	0.3	1.6
	4-6月	0.6	1.3	1.5	1.4	0.4	1.8	▲0.1	▲0.2	1.3	▲0.2	▲0.9
06	1月	0.7	2.4	▲3.5	2.4	0.3	0.7	0.2	▲0.5	▲0.6	▲0.2	1.5
	2月	▲0.6	2.6	▲0.6	▲1.7	▲0.3	▲0.7	▲1.5	▲0.6	0.5	▲0.6	0.5
	3月	▲0.8	1.4	▲1.0	▲2.5	1.1	▲1.5	▲1.7	▲0.1	0.6	0.6	▲1.4
	4月	1.2	2.4	1.9	5.6	▲0.7	1.8	0.9	0.7	0.0	▲1.6	1.3
	5月	0.7	3.7	▲1.7	▲1.3	0.6	1.0	▲0.3	0.0	0.1	1.7	1.0
	6月	▲0.8	1.9	▲1.2	▲0.8	0.0	▲0.4	▲0.6	▲0.1	▲0.2	▲0.7	▲0.8
	7月	0.1	2.0	0.5	▲0.6	▲0.2	▲0.1	0.4	0.3	0.3	0.3	0.9
	8月	0.4	1.4	3.1	0.7	0.3	▲2.0	▲0.1	0.4	▲0.2	▲0.2	▲0.2
	9月	▲1.2	1.1	▲2.7	▲2.5	0.1	▲2.4	▲1.4	0.6	0.6	0.8	▲0.2
	10月	1.7	1.9	2.6	4.7	▲0.6	2.5	3.9	▲0.4	▲0.5	0.3	0.0
	11月	▲0.1	1.3	0.6	0.4	0.6	0.4	▲2.6	▲0.3	▲1.6	▲0.2	0.3
	12月	▲0.2	1.3	0.6	▲1.1	0.0	▲0.3	▲0.2	0.3	2.4	0.9	▲0.2
07	1月	0.4	1.1	▲3.0	1.2	▲1.1	▲0.3	0.7	0.8	1.7	▲1.1	2.4
	2月	1.0	1.7	1.4	0.0	1.0	2.4	3.7	▲0.8	▲0.6	2.2	▲0.3
	3月	▲1.9	0.9	1.6	▲7.6	0.2	▲3.0	▲0.9	▲0.9	▲0.4	▲1.3	▲1.7
	4月	1.6	1.2	1.7	9.3	0.6	2.9	▲1.8	1.3	1.6	▲1.1	0.3
	5月	▲0.1	1.3	▲2.3	▲3.0	▲1.2	0.4	1.3	▲0.8	▲0.7	0.4	▲0.5
	6月	0.1	1.4	0.2	▲0.7	0.9	▲0.2	▲0.3	0.1	1.7	2.1	1.0
	7月	▲0.5	1.3	▲4.1	1.8	▲0.8	▲1.4	1.7	1.1	▲3.4	▲2.2	0.1

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

○第3次産業活動指数：前月比▲0.5%と天候要因で下振れ

7月の第3次産業活動指数は前月比▲0.5%とコンセンサス(同▲0.5%、レンジ：同▲0.9%～+0.3%)通りの結果となり、前月より低下した。もっとも今月の落ち込みは、梅雨明けの遅れや3連休中の台風など一時的な要因が大きいと考えられる。

主要11業種のうち、マイナスに寄与した業種は、卸売・小売業(前月比寄与度▲0.33%ポイント)、医療・福祉(同▲0.20%ポイント)、飲食店・宿泊業(同▲0.19%ポイント)、電気・ガス・熱供給・水道業(同▲0.19%ポイント)など6業種であり、プラスに寄与した業種は情報通信業(同+0.17%ポイント)、金融・保険業(同+0.15%ポイント)など5業種であった。

卸売・小売業は、バーゲンの前倒しの反動による影響もあって各種商品小売業が前月比▲4.0%となったほか、気温が低めに推移したことから衣料品の販売が振るわず、織物・衣服・身の回り品小売業も同▲6.4%と低下した。その他にも、飲食店や対個人サービス業、電気業、運輸業等でも天候要因と思われる低下がみられた。

第3次産業活動指数のうち、それぞれ家計と企業の活動に関連が深い業種を取り出してみると、家計部門¹が前月比▲1.8%、企業部門²が同+0.5%となった。悪天候により外出が控えられたことから、個人消費が抑制され、家計部門の活動を鈍らせたと考えられる。一方、企業部門では前月比+0.5%とプラスに転じ堅調な推移となっている。

¹ 映像・音声・文字情報制作、旅客運送業、小売業、不動産取引業、住宅賃貸業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、学習支援業、対個人サービス業

² 情報サービス業、貨物運送業、卸売業、貸事務所業、対事業所サービス業

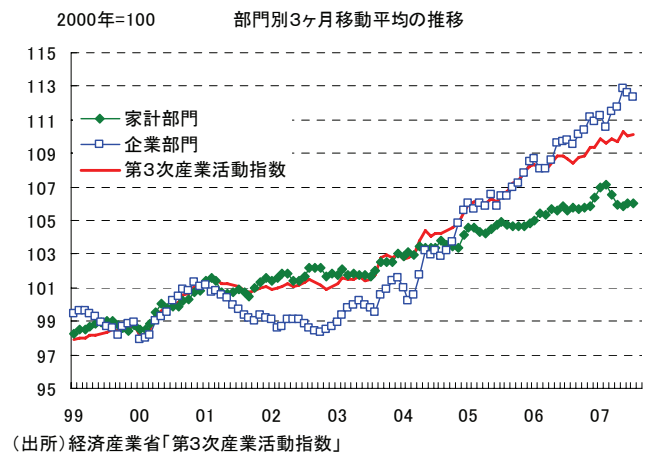
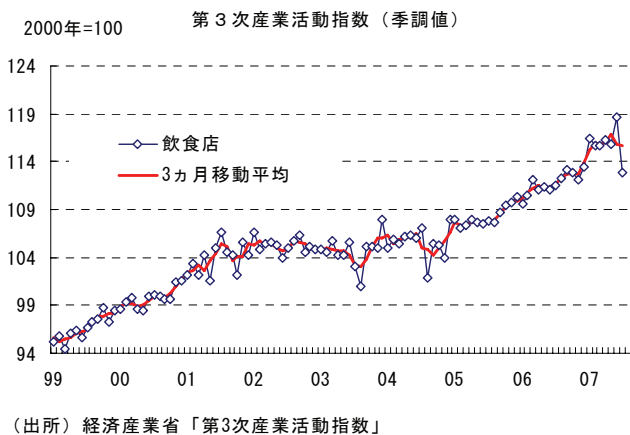
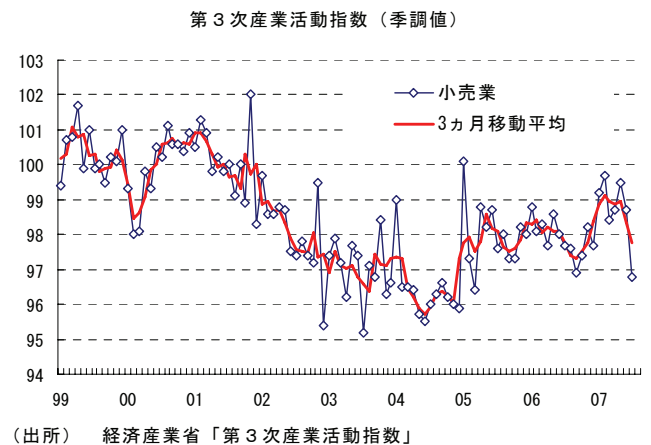
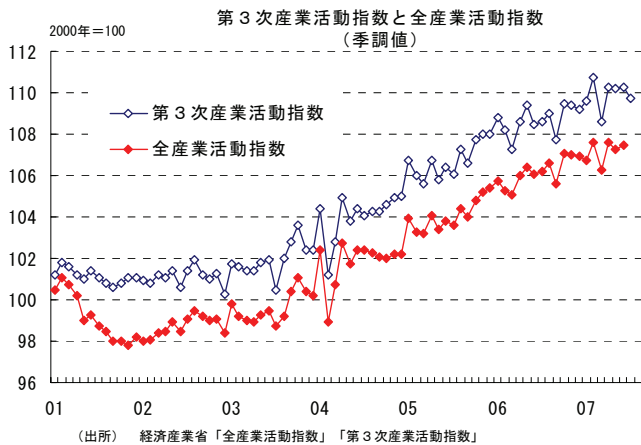
○天候が回復した8月は幾分持ち直す見込み

7月は消費に対してネガティブな要因が多く、天候不順に加えて年金不安やガソリン価格の高騰、住民税負担の増加の影響などから消費マインドも低下した。一方、梅雨が明けた8月は、天候の回復によりエアコンや冷蔵庫、ビール等の夏物商品の売り上げが好調であった。ガソリン価格の高騰等の消費抑制要因が引き続き残るため過度の期待はできないが、8月は天候要因の剥落によって幾分持ち直すと予想される。

個人消費の基調をみる上で重要な雇用・所得環境をみれば、雇用は増加トレンドながらも所得面では改善が鈍い。月例給与はマイナス傾向に改善の兆しもみられるが、夏のボーナスは芳しくなかった模様だ。ただし、完全失業率は3%台に入ってから早いペースで改善しており、労働需給も逼迫してきていると考えられる。今後も家計所得は緩やかながらも改善基調が続くことから、第3次産業活動も緩やかな上昇を続けると見込まれる。

○7月の全産業活動指数は前月比▲0.3%を予想

7月の第3次産業活動指数の結果を受けて、全産業活動指数は前月比▲0.3%を予想する。天候要因によって卸売・小売業が不振で第3次産業活動指数が前月比マイナスとなり、鉱工業生産指数も新潟中越沖地震の影響で前月比マイナスに転じたことにより、全産業活動指数もマイナスになると見込まれる。ただし、低下は一時的である公算が大きく、8月は、第3次産業活動指数がプラスに転じると見込まれることや、鉱工業生産指数は予測指数でも前月比+6.8%と高い伸びとなっていることから、全産業活動指数も持ち直しが期待される。



家計部門・・・映像・音声・文字情報制作、旅客運送業、小売業、不動産取引業、住宅賃貸業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、学習支援業、対個人サービス業
企業部門・・・情報サービス業、貨物運送業、卸売業、貸事務所業、対事業所サービス業